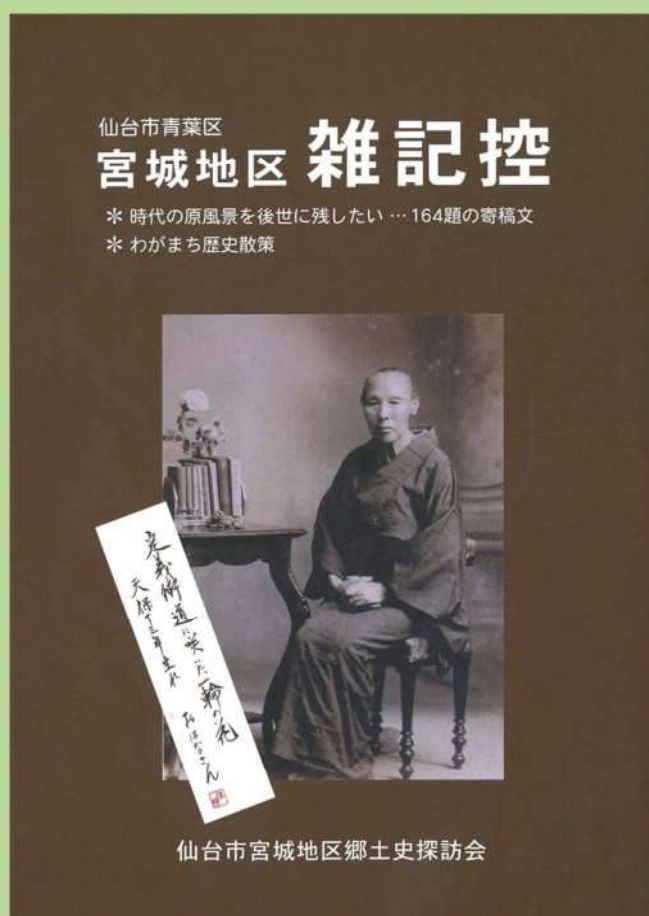
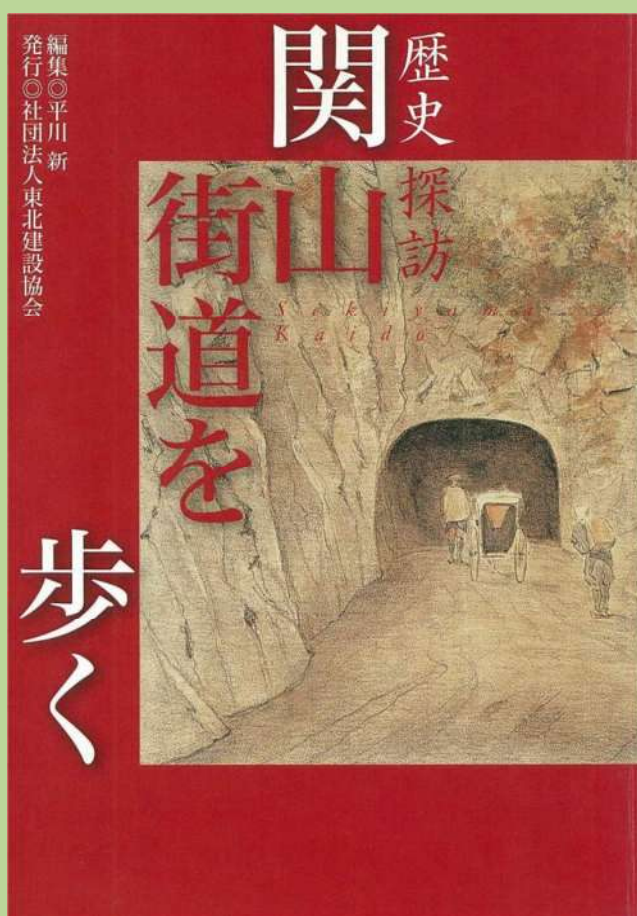


# 関山街道フォーラム

～道がつなく 絆 関山街道の新しい魅力再発見～

## 報告書



関山隧道 & 嶺渡り  
フォーラム  
街道探訪会

平成24年 4月28日  
平成24年 5月26日  
平成24年 5月27日

関山街道フォーラム実行委員会

# プログラム（及び報告書目次）

## フォーラム [講演と活動事例発表]

■日 時/平成24年5月26日 13:00~17:10

■会 場/仙台市広瀬市民センター

- 開会あいさつ みやぎ街道交流会 会長 白鳥 良一 P1
- 記念講演会 『歴史に探る広瀬の宝 関山街道の魅力』 P2  
[13:10~14:00] 東北大学 教授 平川 新 氏
- 基調報告 『宮城地区雑記控』 P7  
[14:00~14:30] 仙台市宮城地区郷土史探訪会 会長 本間 一夫 氏
- 活動事例発表

テーマ

- ◇関山街道の歴史・文化に学ぶ
- ◇新しい地域の魅力再発見
- ◇地域の元気再生への取り組み

コーディネーター : 宮原 育子 氏(宮城大学教授)  
アドバイザー : 平川 新 氏(東北大学教授)

### 【第Ⅰ部】 [14:50~15:50] P9

- I-1 天童郷土研究会 / 浅井 紀夫 『幻の公道小山田新道の発掘』
- I-2 仙台・作並回文の里づくり実行委員会 / 相沢 良雄 『回文の里事業を中心とした作並の振興』
- I-3 愛子の郷交流会 / 秋山 榮作 『身近な愛子の歴史の紹介』

第Ⅰ部フォーラム [発表者3名、コーディネーター、アドバイザー]

### 【第Ⅱ部】 [16:10~17:10] P13

- II-1 みやぎ西探訪会 / 鈴木 博美 『宮城西地区の旧古道、史跡等の探訪活動』
- II-2 八幡地区まちづくり協議会 / 後藤 潮 『どんとロード八幡雀踊りや八幡杜の館』
- II-3 広瀬川市民会議 / 工藤 秀也 『広瀬川で遊ぼう、作並かっぱ祭り等の活動』

第Ⅱ部フォーラム [発表者3名、コーディネーター、アドバイザー]

- 閉会あいさつ 広瀬市民センター館長 佐藤 敏国 P18

- 交流会 P18

[17:30~19:30]

関山街道沿線で活動している皆さんで街道談義

イベント 『関山隧道&嶺渡り』 [平成24年4月28日(土) 8:00~16:30] P19

街道探訪会 『宿場町を歩こう』 [平成24年5月27日(日) 9:00~15:00] P20

参加者内訳及びアンケート結果 P21

巡回パネル展 P23

【広瀬市民センター】5月26日(土)~6月3日(日) 【八幡杜の館】6月7日(木)~7月1日(日)  
【作並湯の駅 ラサント】7月1日(日)~7月7日(土) 【ニッカウキスキー(株)仙台工場】7月7日(土)~7月11日(水)

新聞報道、関山街道フォーラム実行委員会の開催経緯 P24

関山街道歴史メモ P25



主催団体の代表として、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、仙台と山形を結ぶ関山街道は、古くから人と物が行き交う重要な交通路

であり、その沿線には、豊かな自然、歴史、文化、風土などに関わる特色ある地域資源がたくさん残されています。

そして、こうした関山街道沿線の地域資源をめぐって、郷土史を調査研究されている団体、自然探訪や自然体験を通して豊かな人間性を育む活動をされている団体、国道48号沿いの歩道清掃や花壇の整備などのボランティア活動を展開されている団体、さらにはこうした地域資源を活かした本物の観光事業の振興に取り組んでいる団体など、市民、企業、行政などに関わる実に多くの団体がさまざまな活動を行っております。

こうした各団体の取り組みは、どれ一つとってみても、とても貴重ですばらしいものではありますが、ややもすると個別の活動に止り、横のつながりが必ずしも充分ではないのではないかとおもわれます。

そこで、関山街道沿線をテーマとしている団体同士が相互に交流し、それぞれの団体がお持ちの情報を共有し、絆をより一層深め合うことができれば、そこから新しい視点が開けるのではないかと。

また、そうすることにより地域全体がさらに元気になる、関山街道沿線の地域的魅力を一層鮮明に発信出来るのではないかと。そして、宮城の地域にとどまらず、山形の方々も含めた広域連携と地域作りに貢献できるのではないかと。この想いから、私ども「みやぎ街道交流会」が中心となっ

て関連諸団体に呼びかけ、今回「関山街道フォーラム」を開催する運びとなりました。

私たち「みやぎ街道交流会」は、「宮城の豊かな地域資源について、街道と水運という切り口から見直して、地域間の交流と連携を促進し、豊かで誇りある宮城の地域づくりに貢献する」ことを目的に活動を行っており、今回は「関山街道」をテーマにとりあげさせて頂きました。

ところで、関山街道という歴史的な道をキーワードにする以上は、そこにはこの街道を巡る歴史的背景に対するしっかりとした学問的な裏付けが必要であります。この地域がどういった歴史をもって存在してきたのか、過去をしっかりと踏まえることにより、今後の進むべき道も見えてくるのではないかと考えます。

幸いにも、近世交通史研究の第一人者で、長年にわたり関山街道についての調査研究を続けられ、その成果を『歴史探訪 関山街道を歩く』という本にまとめられておられる東北大学災害科学国際研究所所長で「みやぎ街道交流会」顧問の平川新先生に実行委員長になって頂き、本日の記念講演講師とフォーラムのアドバイザーも務めて頂くことになっております。

また、フォーラムでは、県内外で広く地域振興に貢献しておられる宮城大学事業構想学部教授の宮原育子先生にコーディネーターをして頂くことになっております。

最後に、宮城総合支所及び広瀬市民センターの皆様には、いろいろとお世話を頂きました。お礼申し上げます。

このフォーラムが関山街道沿線で積極的に活動を展開されている団体同士の緊密な連携活動のきっかけとなり、この地域の大きな発展の第一歩となることを願っています。

### 【関山街道フォーラムのテーマ】 道がつなぐ 絆 関山街道の新しい魅力再発見

関山街道沿線には、自然、歴史、文化、風土などの豊かな地域資源があり、郷土史を調査・研究されている方々、市民活動団体・企業・行政などさまざまな活動・取り組みが行われています。

そのような地域の魅力や活動内容等をもっと色々な方々に知ってもらいたい、また各団体間の情報の共有と相互交流により、さらに絆を深められたら、そんな思いから実行委員会を立ち上げて関山街道フォーラムを開催いたしました。

今回は、小さなきっかけですが、これからの地域のあり方を皆さんで考える、最初の一步であることを期待しています。



今日は「歴史に探る広瀬の宝」、特に関山街道を中心に、私たちの身近な所にどのような宝が眠っているのかを紹介いたします。

2009年に赤い楽天カラーの「関山街道を歩く」という小さな本を出しました(表紙写真)。

私がこの愛子に引っ越して来てもう26年になりますが、長い間、職場と自宅を行き来するだけで、地元のことをほとんどわからないという状態でした。この地域が開発される情景を見て、身近にあるものがどんどん消えていくという思いにとらわれました。そこで街道を巡るいろいろな史跡・遺跡などを調査し記録に残せないだろうかという相談を、今は無い道路資料館にしたところ、東北建設協会からバックアップをして頂けることになりました。

関山街道を八幡から羽州街道と合流する天童まで2年をかけて、地元の方々のご案内を頂き、史跡の確認をしました。宮城県側で65、天童まで入れると全部でちょうど100箇所の史跡を冊子の中に納めています。写真だけではなく、それぞれの史跡の由来、伝承などを江戸時代や明治の初めの古文献を基に、確認するという方法を取っています。口伝えの伝承は、口伝えが繰り返されると、段々話が変わってしまうということがおきます。実際に、歩いてお聞きした話と古文献から確認できる話がずれていることも結構ありました。そこで、誰でも一番古い記録にさかのぼれて、学術的な価値を持つ冊子にしました。また、ハンディタイプなので、持って掲載された地図を頼りに現地を歩いて頂きたいと、幾つもの目的を持って作った冊子です。

### ■ 関山街道の愛子、熊ヶ根、作並という

#### 3つの江戸時代の宿場

宿場には、領主の荷物を輸送する継ぎ荷の場所として宿駅が造られ、人と馬が置かれ、仙台から馬の背に荷物をつけ、愛子、熊ヶ根、作並の各宿駅で別な

馬に付け替るという「ルー」方式で物資の輸送が行われました。宿駅がいつ頃出来たかは、しっかりした記録が残っていませんが、慶長6年(1601年)、仙台城と城下町が建設をされ、数年をかけての城造りと併せて、奥州街道も整備されます。その際、戦国時代まで奥大道と言われた鎌倉とこの地域をつなぐ道路が新しく西に造られ、仙台城側に迂回したルートに変わり、長町や七北田などの宿場がほぼ同時期に造られます。したがって関山街道も同時期に整備をされ、宿駅もその頃、慶長～元和期(1600～10年代)に造られるのだろうと推測されます。

【愛子宿】 愛子の小松家のお宅に残された古文書に、慶長～寛永年間(1600～30年代)の時期、肝入りと検断役を務めたという記録があります。検断役は、宿場の管理をする役割ですので、明らかに江戸の初めには宿場が造られているからと言えます。

【熊ヶ根宿】 戦国時代にこの地域を支配していた国分氏の家臣(六丁目氏)がいたと記録があり、その居城跡や「大手」という地名も残っています。天正16年(1588年)の戦国時代の後半には、町屋敷があったという記録もあります。それほど大きな規模ではないようですが、町と呼ぶほどの集落ができていたということで、江戸時代に入り、この戦国時代に存在していた集落を基に宿場が整備されたと考えられます。

【作並宿】 新国掃部が作並番所の役人をしていたという記録があり、元和年間(1615～24年)にかけて人・物の出入りをチェックする番所が造られ、多くの場合は宿場機能とセットですから、宿場もこの時期に存在していたと言えます。

### ■ 仙台地域 戦国時代の領域区分

戦国時代の仙台地域がどのような群雄割拠の状態になっていたかを仙台市史に掲載された絵図から紹介します。(図一1の)点線で区切っているのが仙台地域で、国分氏の領域が一番広く、羽州の境から沿岸部までありました。江戸時代には水沢の留守氏が、戦国段階はこの辺りにも領地を持っていました。北目氏、秋保・茂庭と現在の地名と同じ名字を名乗る、それなりに勢力を持った領主たちが、割拠して、小競



り合いをやりながら住んでいた状態になります。宮城・広瀬地域は国分領の西方で、戦国時代の遺跡が意外と残っていて、言われてみれば、それがそうなのかと思うようなところばかりであるわけです。

### ■ 広瀬の戦国時代を歩く ～館・関・石碑～

(図-2)は仙台市史を編纂の際の城郭調査(城郭編)を基にあげた、館(戦国時代のお城)です。比較的



小規模なお城造りの館(「たて」または「たち」)です。一番東側に「葛岡城」、「郷六館」、現在の国道48号沿い諏訪神社近くに「南館」、諏訪神社のところには「御殿館」。そして少し西に「大原館」、「熊ヶ根城」、作並に「平賀館」といったような形で、7つのお城がありました。あと芋沢地域で、一つだけ本郷館をあげておきました。この芋沢から泉に抜けるルート沿いにも、館が群集しているという状態です。見えづらくなるので省略しましたが、戦国時代この地域には、小規模なお城造りの館が存在していたということです。必ずしも築造年代はわかっておりませんが、概ねこのような城がこの地域に造られていました。特に羽州に抜けていく街道沿に館が多く造られているということは、こ

こがメインルートであったということを示しているわけです。

【葛岡城跡】 広瀬川が真ん中に流れ、その北側に葛岡城跡(図-3)があります。由来ははっきりしません



が、戦国時代、伊達家に滅ぼされる運命をたどった小さな大名の国分氏の家来(馬場筑前)の居館とされています。標柱が立てられ、ややこんもりと土塁が盛り立てられており、現在は個人の所有地になっています。

【郷六城跡】 ここも標柱が立ち、城跡と並んで宇那禰神社という曰くあげな名前の、神秘的な雰囲気を持った佇まいの神社があります。郷六城跡に入る小さな道の傍らに、文化財級の建武3年(1335年)に造られた板碑が、無造作に転がっているというのが数年前の状態でした。ちょうど広瀬川が大きく曲がる場所に、郷六橋があったことが、明治初めの地図に描かれています。茂庭道と言われた街道で、今ここには橋はありません。なかなか痕跡が探しにくいのですが、大体のルートは確認出来ました。田んぼのあぜ道になっていたり、どこが道かと自覚しながら見ていかないと、とても昔の古道という風にはわからない状況になっています。

【郷六御殿】 広瀬川のほとりに今はもう跡形も無く、名残として御殿の古井戸があります。この井戸を管理している方は、由緒あるものなので、どうして良いのか扱いが非常に難しいと言っておられました。それだけに、残していただいているということの有りがたみをしっかり認識することが必要です。残して欲しいと言うことは、他人からすれば簡単なことですが、維持するのに経費もかかり、大変なエネルギーを使うということを認識しておく必要があると思っています。(図-4)は郷土史研究者の高倉先生が見

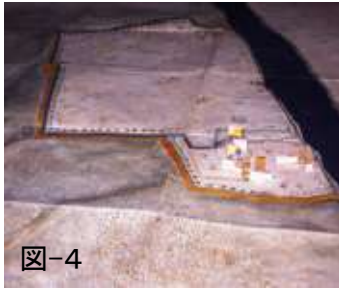


図-4

つけられたもので、江戸時代の郷六御殿の絵図で、立体絵図になっています。御殿を持ち上げると、御殿屋敷の切り絵図がぽっと浮かび上がります。地割

りがされており、これを基に測量をすれば、ある程度の道跡は見てくると思います。この郷六御殿は、4代藩主綱村が貞享4年(1686年)に設けた別荘と言われております。綱村は、色々な軍事的な構想を立てており、その中の一つに仙台城に天守閣を造ろうとの計画があります。同時期のこの別荘は、ただ単に、避暑地や遊び場を造るということではなく、いろいろな意味をこめて造ろうとしているのだと考えております。

**【南館】** 国分氏の家臣(菅場氏)の居城と伝えられていますが、痕跡が何も無くなっており、標柱が一本あります。私たちが行った時には倒れており、みんなで起こしました。

**【御殿館・御殿山】** 頂上には、土塁の跡がかなりきれいに残っております。江戸時代の記録では、ここには野武士がこもっていたという言い伝えがありますが、城の遺構、土塁や掘り割りの規模、国分の一ノ宮の諏訪神社がすぐそばにあることから判断すると、記録に無いだけで、れっきとした武将が拠点にしたのだろうと考えております。

**【本郷館】** 古い記録から本郷盛重、花坂勘解由などの居城ではとの説が出されています。かなり立派な城郭の造りをしており。(図-5は)後ほど講演される



図-5

本間一夫氏のお屋敷から撮影したもので、本郷館を前に、遠くに錦ヶ丘団地が眺められ非常に絶景です。

**【大原館】** (図-6の)断崖絶壁の上に館跡があることが確認されています。広瀬川に昭和11年に造られた天野橋(今は通れない状態で趣のある残骸が残る)を渡って、斜めに少し線が入っていますが、これが定義の方に抜けていく道路で、断崖道路と呼ば



図-6

れていました。ここを歩いて上に行き、そこからバスに乗ったとのこと。【熊ヶ根城】 回りには土塁がかなりきれいに残っており、

六丁目氏が居城したとのこと。城郭の専門家によると、戦国時代も城の中を街道が走るような形をとっていたとの見解のようです。この旧道のところから広瀬川に降りていくしかないの、必ずこの熊ヶ根城を通る位置関係になっていたわけです。城の中かあるいは城に接して道路を造って、ここで通行人から関銭(せきせん)を取ることが考えられます。

**【関所と関神社】** 熊ヶ根からさらに西に進むと関という集落があります。(図-7に)関一番、関二番、関三番という地名になっております。以前調査をした



図-7 関と関所神社 →関所の痕跡？

時に、この集落の山手に関所神社があり、いろいろな方の見解を総合すると、戦国時代には関所があった可能性が高く、その名残で関という集落、そしてその関所の守り神社として関所神社が造られたのではないかと考えられます。関所自体はおそらく山筋の道から出てきた辺りの一番関所が造りやすい場所に造られたと思います。小さな山沿いの道には、幾つもの石碑が並び、少し行くと山手に登る階段や鳥居があります。そこを登ると小さな祠も見え、それなりに趣のあるところです。

**【平賀館】** 作並宿のはずれ、北側のこんもりとした高台にあります。

このように関山街道は、江戸時代に造られた街道

で、定着した名称ですが、それより古い時代から当然ルートが存在し、そのルート沿いに戦国大名達が小さなお城を構えていた。城めぐりをする事でその時代の雰囲気を確認できるというわけです。

### ■ 最上古道

(図-8は)明治の始めに描かれた栗生・愛子付近の絵図です。仙台の方から作並街道を通過して落合橋



があります。橋を渡り折れてまっすぐに山形方面に行く一番下の茶色線が、江戸時代の作並街道・関山街道で、愛子宿の区画が少しうっすらと描かれています。これとは別にもう一つ黄色線のルートがあります。こちらは栗生から蕃山の麓を通り、彌勒寺、安養寺、戸ノ内(今は戸内)の集落を経て、諏訪神社の前に出てサイカチ沼の方を通過して秋保に抜けていく道路。あるいは諏訪神社の裏手から回って熊ヶ根に至る古い道路であろうと考えられます。もともと中世までの道路は、かなり山際を走っているのが一般的です。私が26年前住み始めた時の番地は本木裏(今は愛子東)という地名で、本木(図の橋中央の左)よりもさらに北側にあるのが本木裏です。当時は愛子宿を通る関山街道が本来の表通りと単純に考えていたので、何故、街道に近い方が本木裏の地名になっているか不思議に思っていました。いろいろ調べたところ、戦国時代までは、古い街道が蕃山の麓を走っていて、こちら側がメインストリートだったので、離れている北側の方が本木裏になる。しかし、江戸時代にこの最上道とは別に、関山街道・作並街道が整備されて、こちらがメインルートに移り、結局、地名はそのまま残る訳です。地名からも街道の歴史を読み取ることができると思いました。

【彌勒寺】 境内の少し蕃山側に登ったところに元亨

の碑(鎌倉時代の板碑)があります。歴史学の側からも注目をされている板碑です。境内の中には武家屋敷の様式を残した薬医門が建てられています。平成18年に解体される際、弥勒寺に引き取って貰えないかとの話があり、ご住職が引き受けて市内の木町通から移築したものです。由来を調べて欲しいと依頼をされ、あちこち調査したところ、明治7年に誰それの建てたものであると言うところまで判明できました。

【安養寺】 1600年代の江戸時代初めに造られたお寺です。門前に樹齢400年の「種まき桜」という春を告げる桜があります。

【青木明神】 諏訪神社方面に進んで行くと小さな祠があります。この祠自体は享保7年(江戸時代の中位)に建立され、何度か造り替えられ、それほど古いものではないのですが、祠の中に納められている棟札を見ますと、寛正年中(1460年代)の室町時代の創建で、そこまで由緒はさかのぼる古いお社です。

【諏訪神社】 鳥居に「ささりんどう」の紋章が掲げられており、広瀬小学校の校章(図-9)とウリ二つで



す。地元の方から、諏訪神社は国分の一宮であると同時に、この地域の

の守り神、鎮守であり、広瀬小学校が造られた時に、地域の子供達が勉強が出来て、健やかに生きていくことが出来るようにとの願いを込め、諏訪神社の紋章を校章に取り入れたとの由来をお聞きしました。

戦国時代の館と最上古道を見てきました。この広瀬には、古い歴史をもった鎌倉時代の「元亨の碑」や、室町時代初めの「建武の碑」が無造作に転がっているということです。是非、皆様散策がてらご確認に行っていたいただきたいと思いますし、なんとか消えないうちにしっかりと保存措置を出来るようにした方が良いでしょう。

### ■ 宿場を歩く

【愛子宿の町建て】 江戸時代(1610年代辺り)に落合橋からまっすぐ西に進む街道、そこに愛子宿が新しく町建てされました。近在にあった家々をここに集めてくるのですが、人々を強制的に移させることは難しい。江戸時代の権力は、なんでもやりたい放題

だったと思われる方が多いのですが、そんな強制力を持っているわけではありません。この町場に移ることによって税金を免除したり、なんらかの権利を与えると、いろいろ魅力策を領主は行って、そこに人々が集まり、集落が形成され、にぎわいをもたらされることになります。

**【落合橋】** 赤い鉄橋で、人しか渡れない橋です。下を望みますと、昭和23年のアイオン台風で流出した、橋桁の基礎がそのまま残っている。残骸ですけど今となっては非常に貴重な遺跡です。落合橋に降りて行くところと芋沢の方に真直ぐ行くところ(定義に行く道)の分かれ道に道標があります。また少し手前に回文の碑がありますが、これは後ほど回文の会の方から詳しいご紹介があると思います。

**【愛子宿】** 愛子宿の東のはずれは、現在古碑が集められている所です。そして宿場の真ん中辺りのちょっと引っ込んだ裏手に子愛観音があります。宿場の西のはずれは、愛子駅の近くの信号がある交差点の傍らに延命地蔵がある所です。この古碑群と延命地蔵の間が江戸時代の宿場の範囲であると考えて良いと思います。

**【熊ヶ根宿】** ここは実際に散策を予定されている所で、明日ご覧頂ければと思います。

**【作並宿】** 旧道に入っていくところで、一番西側の端の所に、戦国時代までは平賀館もここにあり、同じ場所に境目番所が置かれていました。

### ■ 関山峠を歩く

3D画像で作ってある関山峠(図-10)です。仙台



方面から来ると、赤い点線で真直ぐに尾根沿いに登って行き、そして出羽の側に降りて行く。これが江戸時代の関山街道の嶺渡りルートになります。そして明

治15年に新しい道路が造られるのですが、それは、現在の関山トンネルの少し手前から南下をして、山の麓を迂回して関山隧道が掘られた。その隧道をくぐって出羽の側に出て行くルートになっています。現在、皆さんが車で通るルートが昭和に入って造られた関山トンネルです。この関山峠は、江戸時代・明治時代・昭和の3つの道路が集積されている地域であると言って良いと思います。一番左側の所にもう1つルートを書いているのが、小山田新道です。後ほど天童の浅井さんからご紹介があると思います。明治に入って開かれた新道です。

この関山隧道は、山形県側は近代化遺産として指定されていますが、宮城県側は指定されていない。同じトンネルなのですが、行政区域で分断されていると面白いことがおきる。これを、今後両県、あるいは東根市と仙台市でタイアップして、うまく観光資源に活かすことを考えなければならない場所だと思います。

### ■ さいごに

かなり駆け足で、広瀬地域にある歴史・街道・古い城跡を紹介いたしました。もっと他にも沢山宝物はあるし、「広瀬ぐるーっと100巡り」での調査も行われているとのことです。100を越える見所が沢山あり、多くの人の生活があちこちに刻みこまれていると思います。

このような古い物を探し出して、私たちの現在を生きていくための1つ心のよすがにすると、単に精神的なより所にするだけではなく、実際に地域に活かし元気にしていく、資産・資源として再活用していく試みが必要だろーと思います。

その最初のキックオフの動きとして、今回のこのフォーラムが関係者によって開かれたわけです。

いろんなことを調べ始めると郷土意識が非常に強くなってきます。私も26年ここに住んでいますが、この関山街道の調査を始めて、私の郷土はこの愛子かなと思えるようになってきました。自分の生まれ故郷(九州の村)を忘れていたわけではありませんが、私の子供達はここで生まれ育ち、ここが郷土であるということになる。親の私が違うよとは、とても言えない。やはり私も同じ心持ちで、この地域を愛し、より豊かな形で皆さんと、その宝物を愛でて活かしていきたいという風に考えております。





我々、仙台市宮城地区郷土史探訪会で出版しました『宮城地区雑記控』の出版にける思いと内容について報告します。

先ず、会の発足について紹介します。

昭和 62 年に仙台市と宮城町が合併しておりますが、合併前の『宮城町誌改訂版』の編纂が終わって解散する時、委員長から「このまま解散するのはもったいないじゃないか、みんなで集まって郷土史の勉強会をつくったらどうだ」という提案があり、この会が昭和 52 年に 7 人で発足しました。それから 35 年経ったのですが、50 人ちよつとの会となっております。

#### 発刊の思い

『宮城地区雑記控』(以下『雑記控』)は、昨年の平成 23 年 6 月 28 日に出版しました。出版部数は 800 部です。販売に 2 年と見ていたのですが、2 カ月で完売しました。うち 50 冊は、仙台市宮城地区の小学校・中学校・高校や仙台市の図書館に各 1 冊寄贈しています。それから宮城県立図書館や国会図書館にも寄贈しております。

『雑記控』を作った思いである「時代の原風景を後世に残したい」ということについて話します。

我々が江戸時代の記録を見る時に『安永風土記』がよく話題になります。これは伊達 7 代重村の時代に儒学者の田辺希元が、肝入とか郡奉行とかを使いまして、記録を集めております。項目は 41 項目プラス 4 項目で、45 項目にわたっております。これは、下愛子村に「馬が何頭」「田んぼがいくら」「畑がいくら」、それから「川」とか、「お寺」とか、「銘木」はどのくらいとか、こういう箇条書きみたいなものになっていますから、風景として見えない欠点を持っています。ちよつと難しいなという気がします。ですから、平川先生のような方に風景を創りだして貰ってお話を頂くといい風な形になります。そのまま見ると生活が見えてこない、風景がでてこない。

我々は、そういうのをひとつひとつ切り出して、

原風景を後世に残してみよう。それで『宮城地区雑記控』という題で皆さんから内容自由でいろいろなものを集めて、それを読んだ人がその中から風景が見えてくるようなものを作りだそうということで、164 題を集めております。「目を閉じれば、瞼の裏に少しずつ遠ざかる時代が見える…」という形で書いてあります。

#### 内容の紹介

幾つか内容を紹介します。

先ず、仙山線の今の葛岡から山屋敷トンネル間の上り勾配がきつかったため、汽車を後押しした方がかなりおります。昭和 4 年、仙台⇄愛子間が開通します。最初の機関車が B20 型という、234 馬力、これは車ですと 3,000cc のエンジンです。本数が少ないものですから、出勤とか会議とかで満員だったというような事もあり、汽車を「いや、おれも汽車の後押しをした」という人が結構おります。トンネル前後はかなり勾配が急なんです。

昔の駅は、仙台から北仙台、落合、愛子になります。そして、昭和 6 年になり、作並まで鉄道が延びております。その後、343 馬力の機関車がでております。それから昭和 10 年ごろは 700 馬力を超した様です。この最初の機関車の写真がないかどうか、JR や旧国鉄時代資料室などに問合せたけれど、ありませんということでした。昨年 12 月に白沢の方から電話が入りまして、「家に機関車の写真があるんだ」と持って来てくれました。開通前の工事中の機関車で、A4 版位の写真です。これが昭和 10 年頃の機関車だろうと思います。

それから、機関車の前に乗った方もいます。客車がいっぱいだと、石炭を積む炭水車に乗ったり、機関車の一番前に乗ったそうです。

また、芋沢の長泉寺に「一分五秒碑」があり、「一分五秒 あれや落合 ちよつせん寺」と刻まれています。これは、1分5秒でトンネルを抜けたということ喜んで作った句という事です。測ってみました。現在は 25 秒で通り抜けています。やっぱり時代が違っています。

昔、コンビニも公共施設もない時の観光バス旅行では、落合にあった「宮城農学寮」の麦畑がトイレに使われていたと書いた方がいます。トイレがないから便利だったのでしょ。

それから、ランプから電灯に変わった時の話です。作並のこけし屋平賀さんの 2 代目謙次郎さんは今 90 何歳です。この方が、電灯が入って、ロウソクとかランプと同じレベルに考えて扇いだそうです。いくら扇いでも消えなくて、恐ろしくなって泣いたと言っていました。そういう時代もあったのです。

第 18 代横綱「大砲萬右衛門」。白石出身です。198cm の背丈で、60kg の米俵を両手に下げて軽々と歩いたという方です。当時、横綱と力比べをした小松儀平さんのことは 4~5 人の方が書いております。横綱大砲萬右衛門と小松儀平さんの写真はそろって本に掲載しております。

『雑記控』の最初に「三千分の一のこけし」という題で書いてあります。これは昭和 6 年、仙台今作並間の鉄道開通に際して、バス会社社長の清水源太郎さんが、作並駅と作並温泉間の往復バスの切符を買った人に 1 本ずつこけしをサービスしております。3,000 本作ったのですが、「それ珍しいね」と平賀こけし屋さんに行き、「1 本残っていませんか。残ってなければ、誰か持っている方を知りませんか」と聞いたら、「どこにもないでしょうね」という話でした。後日、私の友達で仙台にいるこけし研究家の高橋五郎さんの家を訪ねた時、高橋さんが、ケースから 1 本こけしを取り出して、「これ、こけし研究家だった天江富弥さんから来たんだ」と。「これは、作並駅と作並温泉を利用したお客さんにあげた 3,000 本注文したものの 1 本である」という天江さんの説明付きで高橋さんが持っていました。

これには、余談がありまして、清水源太郎社長がこけし 3,000 本の代金として、平賀こけしに 100 円札を出した。ところが、こけし屋の謙次郎さんは 100 円札を見たことがなかったのです。困って友達に見てもらったら、友達も見ることがなくて、偽札か、本物か分からなかったという話が残っています。

あと、中国に戦争で行っていた時、福島県の兵隊は、弾に当たらないという言い伝えのあった、定義山のお守りを持っていたと言うのです。福島県の兵隊がそれをトイシで落としたので、そのお守りを拾ってきた。それで、自分も生きて帰ってきたのではないかと語っています。

切腹を止めた話も残っています。畑前の方のところに榴ヶ岡の連隊が燃料に使う木を切り出すために多人数で泊まっていたようです。ある日突然、

直立不動でラジオを聞いていた。その次の日、床の間付きの部屋が少し開いていたので見たら、将校が腹をだして、畳に軍刀を突き立てていた。当時 3 歳だったその方は驚いて、お祖母さん呼びに行き、お祖母さんが部屋に飛び込んで切腹を止めたということです。直立不動で聞いていたのは、天皇陛下の玉音放送だったのです。

それから、朝夕 6 時に愛子のお寺の鐘がなりまします。あれは戦艦陸奥(43,000t)の鉄片 20kg が入っていますから、鎮魂の鐘ということです。

ほかにも、博打とか妾の話など聞いてきても書けないのがありました。

### さいごに

この様な話などいろいろありました。しかし、それだけだと歴史の本にならないなと思いました。それで、『雑記控』として、全体の 2/3 を使っていますが、1/3 を「わがまち歴史散策」という形で歴史を載せております。ただ、読みやすく、簡単に、一般の人がそのまま入れるような書き方になっております。

宮城町で生れて育った多くの方から「よくやってくれた、良いものを残してくれた」という言葉を聞きました。やっぱり嬉しかった。私の考えとしては、100 年・200 年・300 年後の将来の人が、この本から昭和、平成の時代の風景を生き生き感じて頂ければ、やったかいがあったと思っております。これで、私の報告は終わります。

(会場から「増刷は難しいでしょうか。」との問い)

2 ヶ月で完売したので増刷を考え、印刷屋に行きました。300 部増刷するからと言ったら、1 冊 1,400 円位かかる。印刷の部数によって違う。最初に刷る時に売り値段を 1,000 円として、部数の 800 部を決めた。増刷は 1,400 円なりますから、今のとこまだちょっと…。いずれ考えるかもしれません。





関山における街道の歴史に、とどまることなしに過ぎていった東根市の猪野沢から仙台市の新川に通じる延長 30 km 弱の道、「猪野沢新道」として始められながら、後に「小山田新道」と

呼ばれるようになった道の姿を紹介します。

この道は、山形と仙台とを結ぶ大動脈国道 48 号のもととなった関山新道の開かれる直前に、関山街道の馬車道の先駆けとして明治 10 年に完成しておりました。

東根市猪野沢の有志小山田正見(10代 理兵衛)が私財をもとに開いたものです。

明治新政府は、地方交通網の整備を促進していくため、道路等の整備をした者には通行料を徴収し、工事費用の一部償却に充てることを認めており、この政策をもとにし、山形県からの下し金(補助金)も受けながら民活事業として進められた道です。

しかしながら、県令が変わるや完成間近の明治 10 年に、国への路線変更の手続きを経て公道からはずし、新たな路線 関山新道へと進んでゆきました。

平成 16 年から実地調査に入り、道跡を辿りながら同 19 年にようやく「猪野沢の岩崎」から「新川の初ノ小屋」に至るこの道の路線図を再現しました。

道の開かれていたことが確かめられたので、さらにその実像に迫るべく小山田家文書(東根市)や公文録(国立公文書館)に辿りつき、山形県史をベースにしながら上記のように道の全体像をほぼ明らかにすることができました。

ここで、明治 9 年 8 月に、統一山形県の初代県令に着いた三島通庸が、関山新道を進めていくうえで、何ゆえ完成間近に至った道をわざわざ公道からはずさざるをえなかったのかが大きな謎として浮かんできました。

その背景には、当時の最新技術により関山を隧道でぬいていくという三島県令自らの計画を実現するのに、この道をそのまましていたのでは、関山に複数の公道を開くことにつながり、工事資金調達面で理解を得るのに懸念があったこと。県令着任間

もない明治 9 年 11 月には、早くも県内主要道路の開鑿計画とそれへの費用負担を県民に要請しており、翌年の国への「路線再伺い」の中でも、変更後の路線は費用の償却を要しないことを強調していることから、三島自身、公道の整備を地方の有志等の手に委ねるという当時の国策とは相容れないものを持っていたことがうかがわれる。

地域間の誘致合戦の結果、路線の変更がなされたと言えども一部地域に残されてはいるが、両新道の着工、完成の時期からみて整合性がとれないし、道路等の社会資本の整備を絶大なる権力によって強力に推進めていった三島県令の事業の進め方からしても、地域の力関係によって路線が左右されたとは、信じ難いものがあります。

未解明の古道に迫っていくには、言伝えや関係者の思いを丁寧にひろいあげ、汲取り、何よりも先ず、直接自らの足を踏み入れて調査し、その結果を文献資料があればそれで裏付けていくことに尽きるということでありました。これからも、布教僧や戦国武将の往来のあった道、中世の関山街道の歴史に近づいていく夢を見ております。

年々、現代の関山街道 国道 48 号の整備が進むにつれ、作並や新川の方々にとりましては県境を越える時間距離が縮まり、東根も日用品買物の町となってきました。

両県の交流に大きな役割を果たしてきた関山街道の歴史に思いを馳せながら、道を通してさらに交流の広がりが大きくなるよう取組んでいきたいと思っております。



【この報告内容は、フォーラム後に発表者より提出していただいたものです。(以下の報告も同じ)】

1. 活動事例紹介の内容



「幕末の廻文師・仙代庵」が作並を詠んだ回文碑が旧作並街道にあった縁を基に、古くから日本に伝わる回文を取り上げて、関山街道沿いに温泉のまちとして発展してきた作並地区を、異

彩と特色のある“回文の里”にすべく、様々な取り組みを行っている活動事例を紹介した。

【具体的な紹介内容】

- ①仙台・作並回文の里づくりが目指していること
  - ・わが国固有の文化でもある“回文”をもっと普及・発展させること
  - ・仙台が生んだ逸材「仙代庵」の活躍をもっと顕彰すること
  - ・回文の普及・発展を通じて作並温泉を中心に作並地区の地域おこしを図ること

②主な取り組み内容

- ・回文コンテスト・交流大会の開催  
回文作品を
  - i) シンプル文の部 (13文字以内の回文)
  - ii) 句の部 (俳句形式の回文)
  - iii) 歌の部 (短歌形式の回文)
  - iv) 自由の部 (回文による詩、自由な文章の回文)
  - v) 作並温泉賞の部 (作並温泉をイメージする回文)
  - vi) チビっ子の部 (小学生限定、7字以上で自由な文章の回文)

の作品を全国から募集してその出来具合を競うコンクールをこれまで 14 回開催してきたこと。この結果 12,000 点の作品が集まったこと。

また、作並温泉に1泊して回文愛好家が交流を深めながら、回文作りの研鑽を行う大会を 10 回開催してきたこと。

- ・蓄積した回文を活用して、回文かるたや回文テキストなどを作成し、作並温泉のお土産品や回文かるた大会などに活用していること

③活動の成果

- ・日本で唯一の仙台・作並だけの恒例行事が継続し、回文＝作並というイメージが定着しつつあり、作並の特徴、作並らしさ、作並の誇りを生み出している。
- ・回文の作品が数多く蓄積され、熟練者を輩出している。
- ・日本独自の文芸としての注目度が増し、かつ仙代庵の顕彰に寄与できたり、回文碑が復活したりしているとともに、児童・生徒の興味・関心も高めている。

2. 活動における課題等

- ①蓄積した財産を十分に生かし切れていない。
- ②地元の愛好者が増えない、育たない。
- ③交流会 (1泊の大会) の参加者が増えない。
- ④回文を題材とするグッズなどの創作・販売が進まず経済効果に結びついていない。

3. 今後の方向性

- ①回文かるた大会を通じて、子ども達への普及を図り、参加人口を増やしていく。
- ②回文テキストの作成・活用により、回文教室の普及を図り、参加人口を増やしていく
- ③回文のれん等のグッズを作成し、経済効果を高めていく。

☆  
作並温泉賞グランプリ

岸の皆草 萌ゆる春  
朝夕深む樹 繁る夏  
萩有る野道 実る秋  
乙なる景色 迎ふ冬  
差有る張る湯も作並の四季

横浜市港北区 太田 光彦

☆  
最優秀グランプリ賞

遠き湯の坂聞け 優し橋の辺の  
しばし清けき傘の雪音

東京都町田市 阿久津 隆彦

① 活動事例紹介の内容



私が所属している「**愛子の郷交流会**」では、現在会員21名で、愛子の歴史や史跡、暮らしや町の変遷などを地元の歴史研究者から学び、現地を探訪する等の活動をして

ています。

今回の事例発表は「**身近な愛子の歴史**」を紹介しました。

伊達政宗の仙台城の築城に伴い、城下町の整備も並行して進められました。

城下町は人口も急増し、物資の供給等のために各街道も整備されました。

最上との交流が盛んな作並街道も「愛子宿・熊ヶ根宿・作並宿場」とともに同時期に整備されたと聞きます。

○仙台城下を離れて最初の宿駅「愛子宿」は、下愛子の「月見橋」(地元では月橋という)を渡ると愛子宿場です。

「飯坂茶屋～中宿地蔵付近の中野茶屋～デノコ茶屋～西口の上愛子延命地蔵尊」まで、約1km弱が愛子宿場「**町**」と呼ばれていました。

宿場町の大部分が下愛子村にありました。上愛子村に属した宿場町は西の一部です。

また、街道からは少し離れますが、街道付近の寺社の一部、子愛観音堂・津島祇園神社・大門寺・国分一ノ宮諏訪神社の由来等についても紹介しました。

② 活動における課題

愛子街道沿いの調査に当たって、愛子の郷交流会の加藤会長と街道筋の家々を訪問し、昔の話を聞いて回りました。茶屋のあった場所・街道の両側に生活用水「タナケ」を屋敷に引いた話・月見橋・地蔵尊の云われ等、貴重な話を色々聞きました。

今回の活動を通じて、貴重な話を地元は勿論広く紹介するために愛子宿場跡に**案内板(茶屋跡・地蔵尊の云われ)の設置**を希望します。

③ 今後の方向性

「愛子の郷交流会」の活動による体験や知識を基に、この豊かな地、歴史と文化の共生する愛子の郷を、新転入者・地域の住民・子供達に伝承するために、今後は「**パンフレットや小雑誌**」を企画・制作して行きたいと思います。

愛子小学校が3年前に開校しました。仙台市で一番マンモス小学校だそうです。しかし地元出身の先生が一人も居ない状態で、この自然豊かな地、「**我がふるさと**」を子供達に正しく伝承するには、私たち「愛子の郷交流会」が中心に地域づくりに貢献したいと会員は燃えています。





(宮原) 第1部の発表者3名の方と意見交換をしたいと思う。浅井さん、小山田新道を歩くことはかなり難しいのか。全線は無理でも、山形や作並側から少しというような形で、当時の緑に触れるといった利用は可能なのか。

(浅井) 私が道跡を見つけだした後、東根山岳会が3回に分けて全線を歩いてみた。全線は難しいと思うが、部分的に歩くことは十分可能だ。今回のフォーラムを機会に、東根市やここを所有している関山愛林公益会、国道48号沿いの公民館等に活用策等について話をしているところだ。

(宮原) 次に、相沢さん、面白い取り組みで、遠くから沢山の人が回文のコンテストに来るということで、観光的に考えると遠くからお客さんを呼べると思う。これからの作並は何かあるのか？

(相沢) 回文を作るというのは、人によっては大変難しいが、即興で名人は3分程度で作る。新たな取り組みとしては、子供回文カルタ大会を開催しているが、作並の子供しか集まってこない。それで、去年、宮城県地区内子供会対抗を開催しても、やっぱり作並の子供しか集まってこない。その所をもっと広げていきたいと思っている。また、中田市民センターの老壮大学から回文をやりたいと来ている。仙台市に市民センターは59あるので、そうゆう方々に是非、脳トレーニングも兼ねて、回文で楽しんで頂けば面白いかなと思っている。

(宮原) 脳トレーニングの切り口や。最近、日本語が上手な外国の方が観光で来るが多くなった。俳句に大変興味を持っている方も来るので、外国人大会なども開催してみたら面白いと思った。

秋山さんは名古屋ご出身とのことだが、ご自身は愛子の魅力をどういう風に思われているか。

(秋山) 魚の美味しさ、野菜の新鮮さ、そして地元の方々の人情の厚さ、これには本当に来て良かったと思っている。第2の人生をここで過ごしているが、第3に行かないでここで終わりたいと思っている。

(宮原) 地域を丁寧に見て行くと、まだまだ、いろいろなものがきちっと残っているということで、見落とさないでいけばいろんな形で活用が出来るということが分かった。

では、平川先生からコメントをお願いします。  
 (平川) いずれも大変興味深いご報告であった。

「天童郷土研究会」の小山田新道について、実は、幕末から小山田新道以外にも、いくつか奥羽山脈を横断する道路を造る動きが、この地域だけではなく、全国的に出ている。その一つとして、小山田新道や関山隧道がある。地域の有力者が財をなげうって地域振興の為に、この時期にこういう新道造りをやっている。そういう事例の一つである。仙台藩領と出羽側を繋ぐ新道開発は他にもあるので、ルートを発掘するのは、登山の経験がないとなかなか難しいと思うが、地域の再発見のひとつの大きな手掛かりになるのではないかと思う。

「仙台・作並回文の里づくり実行委員会」は、私も落合橋の近くにある回文を見てなかなか面白いと思った。この回文を作った人達はどういう人達かというのは非常に興味がある。細谷勘左衛門は商人だけれども、武家も作っているし、庶民も回文を作っているだろうと思われる。身分差を超えた文化、教養であることになる。昨年3.11大震災の津波被災地の資料調査を今も続けているが、若林区荒井地区から江戸時代の古文書が泥まみれになって発見され、その中に回文集が出て来た。この地域でも回文がブームになっていて、何人かの作品が残されているということが分かった。私は作並が回文の本拠地かなと思っていたが、どうやら仙台北下・近在でかなり広く回文の文化が存在していたのではないかと思われる。そういう意味では、市の市民センター、公民館などでこういう運動を広めていきたいという話があったけれども、そういう繋がりのある所を再認識して頂いて、回文の仙台大会を開く。これは史跡とは違う、文化を再発見する動きであると思う。

「愛子の郷交流会」は、本当に身近な所でいろんなものを自分達の足で見回って、それを再発見して、再認識していく。こういう活動を続けることが本当に故郷を愛するとか、そこが故郷になっていくと言う事だろうと思う。何もあらゆるものが観光資源にならなきゃいけない、などと言う風に考える必要はない。自分がこの地域に住んで本当に良かったと思われるようなものを地域の中に探し出していくことを他の所でもしていくと、故郷再発見の動きと言うものが広がっていくのではないかと思う。



私どもの「みやぎ西探訪会」は、平成17年宮城西市民センターの講座として発足しました。主として、同センターの地域内の遺跡、旧跡や古道を中心に尋ね歩き、夫々が住民とのかかわりの中で、現代に伝え残されていることを再確認しました。その後、平成22年度に、前年度で講座が終了した後を受け、活動を継続しようとサークルとして再発足し、現在に至っております。

最近、健康維持を眼目にしつつ、当初の目的を継続しながら、里山歩きの中に山菜や木の実など山の恵みも楽しみに会員の親睦、そして安全をモットーに活動しております。

さて、熊ヶ根地区は、新川、作並地区と共に、宮城県平野部との往来に河川が大きな障害になっており、その証拠に熊ヶ根橋、青下橋から下をのぞくと広瀬川、青下川が両脇を断崖に挟まれて流れているのが分かります。その間を行き来するには沢を渡り山を越えての難行を強いられていたのです。

伊達家2代忠宗公時代の野川道開発等による仙台藩西道により、白沢方面への道が改善されたとはいえ、昭和6年の仙山東線の開通、そして昭和29年熊ヶ根大橋の完成、同時期の青下橋の完成まで、大倉川を含めた三河川が交通を大きく妨げていたのです。

しかし、このような環境の中、熊ヶ根の町中至る所から縄文時代の石器、土器が出土します。更には、青下橋の南、野川地区からは一万年以上前の石器が大量に出土され、しかもそれは最上川系の頁岩と云われております。そのことは、その時代、山形側との交流が既にあったと云うことですし、更に平野部への往来も盛んだったのではないかと思います。

又熊ヶ根は、周りを囲む川の谷が非常に深く、山は標高が低く山懐も狭いため小さな沢しかないので水量もさほどなく、水利の便が非常に悪いことから、江戸期に作並川崎地区から延々と広瀬川の水を引き込み、後年それを改修し、灌漑、生活用水として町中を通して居りました。その様な水利の便の悪さが「夜回り百年」の根本にあるのです。

新川に初小屋と云う集落があります(市営バスの終点)。ここもまた古くからの通行の拠点となっている様々な伝説が存在しております。

ご存じの平貞能(定義の始まりと云われている)が平重盛の孫長基達と共に、源氏から逃れて立石寺から山越えてたどり着いたのが初小屋と云われています(文治二年)。翌三年には、これまた頼朝の追跡を逃れ平泉を目指した義経一行の立ち寄ったのも初小屋でした。

その後も、最上家に城を落とされた天童藩主、又戊申戦争で官軍に追われた天童藩主一行と、この初小屋は山形側から逃れた落人の立ち寄る所であり、これらからも宮城、山形間の地元の人々の通り道、即ち間道として利用されていたと思われ魅力ある地域です。

一方、定義に目を向けると、西方寺は年々参拝客が増加しますが、仙台からは芋沢や根白石方面からの山越えの道しかありません。

昭和に入りバスが交通手段として登場、開通して間もない仙山線白沢駅から定義まで乗客を運ぼうとバス事業を興したのが、天野政吉氏の定義自動車です。

道半から広瀬川に下り、野川橋から右に曲がり、青下川の合流部に天野橋を造り、広瀬川の崖を削って道を造り、大原から下倉、大倉、定義に至る路線です。その後、昭和18年に仙台市に会社、路線を売却しましたが、今も残る広瀬川の崖ぶちを斜めに走る道路の跡は、その執念を思い知らされる様です。





八幡地区まちづくり協議会は「歴史が息づく町並みに、活発な交流と活力を醸成する地域づくり」を実現するために、平成 17 年 6 月に設立された団体です。以来、誇りと愛着を持てるまちづ

くりをめざし、日々活動しています。

本会は平成 13 年、国道 48 号八幡町共同溝整備事業の完成を慶賀し、地区を上げて「どんとロード八幡フェスタ」が開催されたことに始まります。このとき、地域の活性化のためには、自らの活動による地域づくりが不可欠であるとの共通認識が深まり、設立に至りました。

#### 【活動内容の紹介】

##### ① 「どんとロード八幡雀踊り」の主催

八幡町は「雀踊り」発祥の地です。平成 18 年 9 月、国宝大崎八幡宮御鎮座四百年奉祝記念大祭に於いて、雀踊りを奉納、八幡町の国道 48 号を 30 祭連、約 900 人の踊手で埋め尽くし沿道の人々の喝采を浴びました。

以後、例大祭の一環として開催、発展し、今年は第 7 回を迎えます。なお、共催は大崎八幡宮、八幡町商店会、仙台雀おどり連盟であり、主管として「どんとロード雀踊り実行委員会」が組織され、運営しています。私達が目指すのは、単なる「イベント」ではない、「地域の皆さんと共に育てる、地域の祭典」として、地域に溶け込む「祭り」です。

##### ② 「八幡杜の館」(中島丁公園)の運営

平成 20 年 4 月オープン、地域住民の皆さんの憩いの場、地域の文化活動の拠点として、期待を集めている施設です。

平成 4 年、仙台市都市景観賞の、旧天賞苑跡地の中島丁公園に立地し、旧天賞酒造の店蔵を復元した、歴史的に価値ある建物に相応しい、文化活動と展示を心がけています。

##### ③ 八幡杜の館寄席

「落語で八幡に笑いと活力を」を合言葉に、人の繋がりで創りあげた八幡地区独自のイベントです。東北大学、東北学院大学両落研の学生から落

語の指導を受けた小学生が、歴史の香り豊かな「八幡杜の館」にて披露する新しい試みです。

年 2 回(3 月、11 月)定例開催しており、今後、より素晴らしい八幡町の落語会に育っていくことを期待されています。

##### ④ 「杜の散歩道」の発行、販売

仙台市北西部、八幡町をはじめ、北山、国見、新坂町、子平町、柏木から川内、荒巻、広瀬町周辺まで、神社仏閣の名所旧跡、広瀬川の瀬と淵の紹介、そして四季折々の花の名所等、情報誌・散策ガイドとして地域の皆さんから好評を得ています。

##### ⑤ 「四ツ谷用水」一部復活推進

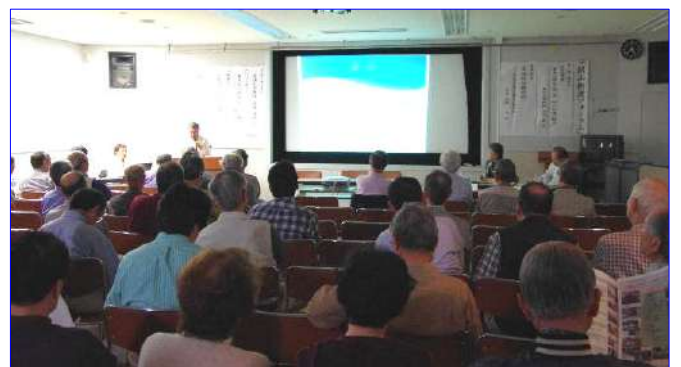
かつて「水と杜の都仙台」を形成した「四ツ谷用水」は既に暗渠化され、あの素晴らしい水環境は失われています。

本会では、仙台圏域の水環境のあり方について、他の推進団体と協議を重ね、長期的な課題として、その復活に取り組んでいます。その切り口として、大崎八幡宮・太鼓橋地点に四ツ谷水路の整備を提案しています。

#### 【さいごに】

会員及び地域の皆さんに私達の活動を理解して頂く目的で、「まちづくり協議会だより」の年 1 回発行と、ホームページを開設し、本会の活動内容を情報発信し、地域と共に歩む姿勢を明確にしています。

私達のモットー「常に地域の提案を正面から受け止め、迅速に行動すること」を念頭に、これからも積極的に活動することにより、八幡地区の「固有の誇りと愛着を持てるまちづくり」、「歴史を個性として育むまちづくり」に大きな役割を担うことが出来るのではないかと考えています。







仙台市が、平成13年に仙台開府四百年を迎えた時に、「広瀬川創生プラン」の策定が開始されております。

そして、このプランに基づき活動する団体として、平成16年4月に広瀬川市民会議が発足しています。

広瀬川市民会議が発足しています。

広瀬川の特徴ですが、河岸段丘で深い渓谷になっており、大変美しい景観です。一方、人間がなかなか近づけないし、河川の利用もままなりません。こうした特徴もあって、百万都市を貫いて流れている都市河川としては、清流が守られています。

1985年(昭和60年)に「名水100選」(環境省)に、1996年(平成8年)には「21世紀に残したい日本の自然100選」(朝日新聞社森林文化協会)に、また、1983年(昭和58年)には環境省の「残したい日本の音100選」に広瀬川のカジカガエルの鳴き声が選定されています。

このように広瀬川の崖には、カワセミ等珍しい鳥も棲息し、大変豊かな川です。さとう宗幸さんが青葉城恋唄を歌ってからイメージ的には有名になりましたが、評価されている一方で、川で遊んだり、川に親しむということが少なくなっています。

私達、広瀬川市民会議は、広瀬川を多くの市民に親しんでいただくために、様々なイベントを開催しております。

宮沢緑地では、「**広瀬川で遊ぼう**」を毎年5月連休3日間開催し、ボートの乗りや、手描きの鯉のぼり約200匹を飾ったり、親子で楽しめるイベントになっております。1日2000人ほどの来場者があります。今年は豪雨で5日のみの開催になりましたが、それでも1500名の方が来てくれました。

上流域では、今年5回目の「**作並かっぱ祭り**」を行います。場所はニッカウ丼スキー仙台工場の前の新川川です。子供たちに水遊びや潜っての魚の観察、ニジマスのかみ取りなどさせますが大変な人気です。参加者の7割くらいが市街地の子供たちで、地域交流の場になっていると思っています。今は、広瀬川市民

会議が中心となって開催しておりますが、これを地域の祭りとして、地域に定着していくことが今後の課題だと思っています。

昨年より「**広瀬川サケプロジェクト**」として、広瀬川に遡上する鮭の観察、受精卵から稚魚を水槽で育て、広瀬川への放流する活動を市民募集して行いました。広瀬川の鮭は、堰があるため牛越橋あたりまで遡上しているようですが、行政にお願いして堰の改良などを行い、もっと上流域に遡上させたいと願っています。観察会に参加した多くの市民から、「広瀬川に鮭が遡ってきているの！」という驚きの声を良く聞きました。広瀬川の魅力の発見になったものと嬉しく思います。

また、環境保全する活動として、「**広瀬川一万人プロジェクト**」として、広瀬川一斉清掃に取り組んでいます。関山峠から関上までの流域を年2回の清掃を行っています。このプロジェクトは百万市民の1割の1万人の参加をキーワードとしており、現在企業やNPO団体などの100団体、1回に2000名ほどの参加者があります。さらに、「みやぎスマイルリバー・プログラム」にも参加し、宮城県と連携し、愛宕堰から郡山堰800メートルの両岸を毎年清掃、除草活動も行なっています。

さらに、「**広瀬川文化講座**」も開催しております。広瀬川をテーマに誰でも気軽に参加できるサロン形式で、広瀬川をいろいろな点から見ているというものです。第1回は「広瀬川と市民の暮らし」第2回は「広瀬川と魚たち」。これからはさまざまなテーマで開催して参ります。

活動をいくつか紹介させて頂きました。

最後になりますが、私たち広瀬川市民会議は、仙台のシンボルといえる広瀬川をフィールドに活動する者として、環境の保全はもちろんのこととして、「自然との共生」や「低炭素社会の実現」など、3.11東日本大震災を経験し一層強く感じるようになりました。

私たちの活動が小さくともこうした課題の入り口であってほしいと思っています。ありがとうございます。



(宮原) 第2部でも大変興味深い活動の話をお聞かせいただいた。鈴木さんの話は、「道」、「川と橋」、その組み合わせが熊ヶ根の面白さを作っていると思った。古い「捻木道」が日常生活で使われていることも面白い。先ほどのスライドのマップは、どこで手に入るのか。

(鈴木) みやぎ西市民センターで作ったもので、200部程度作り、その後、100部、200部と追加したけれども、すぐ無くなり、あまり在庫がない状態だ。どうにかしたいと考えている。

(宮原) 今日は、希少な本やマップの話題が多いけれど、こういった情報を活用して行けると良いと思う。

次に、後藤さん、八幡地区はまちづくりの取り組みが盛んだけれど、住民の反応はどうか。

(後藤) 町内会連合会で出来ないことを協議会でやるということから入った。八幡地区周辺の町内会では関係ないという考え方持っているところが若干あるけれども、大部分は協議会の活動を評価し、自分たちの思いとも一致しているという考え方を持っているようだ。

(宮原) 報告を聞いて、まちに住む人々にとっても楽しみが増えたということが良くわかった。

工藤さんへ。今日は関山街道という道が中心の話題だったが、広瀬川という川の活動を紹介していただいた。上流部に限らず、下流までずっと広瀬川を軸にして、いろんな地域の人と活動をしている。今後は、川に加えて、道や地域で活動をしている方たちと、どの様に協力し合っていきたいと思っているのか。

(工藤) 市民会議のメンバー自体は、会員が30人程度で、マンパワーは大変不足している。もっといろんな活動しているが、それはいろんな団体、他の団体と連携して実現出来ている。最近、企業、NPO団体だけではなく、広がってきている。それでもまだまだと感じており、今回のような連携がとても大事だとつくづく感じた。

(宮原) 平川先生にコメントを頂きたい。

(平川) それぞれに個性的な報告でした。

「みやぎ西探訪会」について、地元で非常に地道な活動をしている。平家の落人とか、義経伝説の話があったが、伝説の里というのは神秘的です。地域に残る伝説は、地区の中でもいろんな伝わり方をしていると思う。それを丁寧に拾い集めて文章化していくということが、後世に伝えていく非常に大きな力になると思う。秋保の落人伝説とか、いろんなところで平家の落人伝説があり、いろんなタイプのもがある。落人伝説フェスティバルなどいろんな仕掛けは出来るだろうと思う。

それから、地元の人からの話を聞いてまとめると言うことは、非常に大事なことであらうと思う。地元の人のお話を聞くということにより、地域の人々の記憶を呼び覚ましていく、非常に大きな効果を持っていると思う。録音し、それを文章化して報告書にしていくと平成時代の語りがずっと残っていくことになる。誰も知らないうちにいつの間にか消えるということにならない状態になっていくと思う。特に、古い写真を見ながら話を聞くというのが、思い出のきっかけを得て効果的である。そういう古い写真は個人宅に相当眠っていると思う。昭和、戦前の時期の写真というのは貴重な映像記録だ。一緒に話を聞くと同時に、スキャナーで読み取って保存していくと、もっと深い地域の話が呼び覚ませると思う。

「八幡地区まちづくり協議会」について、八幡杜の館の運営方式は、全国的にも非常に大きなモデルになるのではないかと考えている。地域の方々が熱心に取り組む例は非常に多いけれども、なかなか成功しない。もっと発信をして、あちこちでこういう動きが出るように願っている。

なお、八幡は、この広瀬地区とのつながりが非常に深いところで、商人の大福帳などが残っており、何々村のどこに何をどれくらい売ったとかのやり取りが記録されている。城下から広瀬、作並に出てくる出発点、こちらからは城下の入り口になり、広瀬や八幡の歴史を解明することが非常に大事であると思っている。

八幡のすずめ踊りは、黒田さんや地元の方々の地道な努力が身を結んで、郷土の祭りから今や仙台の祭りになって、全国的になっているということだろうと思う。

「**広瀬川市民会議**」について、活動の報告を聞いて、市民の方々に自然に触れ合うチャンスを提供する非常に貴重な活動をやっていると思う。

その中、サケプロジェクトの堰の魚道を造ってほしいという要望は、非常に大事な話だろうと思う。サケが上流まで遡上してくるというのは、広瀬地区に住んでいる人だけじゃなく、仙台市民にとっても望ましい環境のあり方であり、マスコミの協力を得た市民運動としていくことが大事じゃないかと思う。

今日は、街道がメインだと思われるけど、広瀬川の役割というのは歴史的には非常に大きいものがある。流し木は、熊ヶ根や定義の方から、山から切り出した材木や薪を城下に流して、あちこちに材木の揚げ場があり、城下の燃料の輸送を支えていた。また、材木を切り出して薪にして売るという意味では、山の民の生業をも支える役割を果たしていた。その様な意味でも、街道だけではなく、広瀬川の歴史も再発見、再発掘していく必要があるだろうと思う。なお、明治の初めの絵図に、広瀬川の中に「やな」のようなものを仕掛けた痕跡がある。広瀬川で川漁をやることによって生計を立てていたということで、生産の場でもあったと思う。今は、広瀬川との関わり方が変わっているけれども、そういう歴史の中で今の広瀬川があるということも再認識していく必要があると思った。

(宮原) 私もコメントしたいと思う。この地区は、本当に恵まれていると思った。街道、自然環境としての広瀬川、それから仙山線という鉄道、こうい



ったものが並行しながらこの地域を形作ってきて、そして大変貴重な歴史を綴っている。それを地域の皆さんたちが大変上手に掬いあげながら

後世に残されようとしていることが大変に印象的である。また、そういった活動を本やマップに表現して、資料としているんな方に伝えられるものを残しているという広瀬の皆さんの文化度の高さが、非常に印象的である。

それぞれの皆さんの活動がとても重要だと思うが、是非今回のフォーラムを機に皆さん同士が交流し、お互いの活動が繋がっていくような形で広がるといいのではないかと思った。今日は天童のほうからも貴重な歴史の報告があったが、これからも是非いろんな形で交流を続けてほしいと思う。

それから、最後に仙山線も大変に歴史がある。土木学会で、仙山線を「選奨土木遺産」として認証しようということで調査活動が始まっている。これを土木遺産として、永らく後世に残すためには、地域の方たちがこの歴史を一緒に分かち合いながら大事にして行くという活動も大変重要になって来る。皆さんの活動がそれぞれ折り合いながら、この広瀬の地域が、また山形につながる地域が豊かな地域として、どんどん発展して行けば良いと思った。

## 写真ダイジェスト





皆様、長時間にわたる関山街道フォーラムの参加大変ありがとうございました。

関山街道に関しましての研究ですとか、調査あるいは皆様自身の学習と言うのは、これまで何回かあったと思います。ただ、今回の

目的は、白鳥会長からの開会のあいさつありましたように、関山街道の自然・歴史・文化・環境など、各分野に関わっている皆様が一同に会して交流を深めるというのが、まず1つ大きな目的です。同時に、近世・近代・現代の関山街道の魅力を地域資源として、もう一回掘ってみよう、掘り下げてみよう、掘ったものを皆さんで共有して、これを広めてみよう。広めてみて、もう一つ先に何が見えてくるか、これが今回の非常に大きな目的ではないかなと思っています。

昨年から、事務局会議とか実行委員会を重ねてきました。春の訪れと同時に、先月には関山隧と嶺渡りの探訪を行いました。

実は、30年前くらいに九州の方と話した時、こんな話がありました。「日本列島で何か感じる事ないですか？」と聞かれ「何を話したいのですか？」と聞きましたら、「日本列島を上から見ると、太平洋と日本海を最短距離で結ぶのは関山街道・関山峠ですよ」という話がありまし

た。峠を登りながら思い出し、関山街道には苦難とロマンの歴史があるなと感じました。

そして、今日は、街道フォーラムということで、平川先生から中世・近世や最上古道の歴史とこの街道沿いに鎌倉・室町の古碑があるということ伺いました。

それから、事例発表の皆様からも報告を頂きました。おそらく、報告を聞いていて、この6団体の皆さんのこの点と我々のこの点を結び、この次の展開があるなと感じた方がいらっしゃるのではないかと思います。

繰り返しになりますが、今、我々にとって大事なことは何かということ、今日の話で得たものを、もう少しイメージを膨らませて、お互いに話し合いをして、次のステップを考えていくことが大事ではないかと思っております。

この後、懇談会もごさいますので、是非、そういった話を進められればなと思っております。

最後になりましたが、改めて、お忙しい中、記念講演を頂いた平川先生、そして、それぞれの会のこれからについて、ご助言をして頂いた宮原先生、また、ご参加の皆様にご改めてお礼申し上げます。

それでは、明日の街道探訪会を楽しみにしつつ、今日の関山街道フォーラムをこれで閉めさせて頂きたいと思っております。

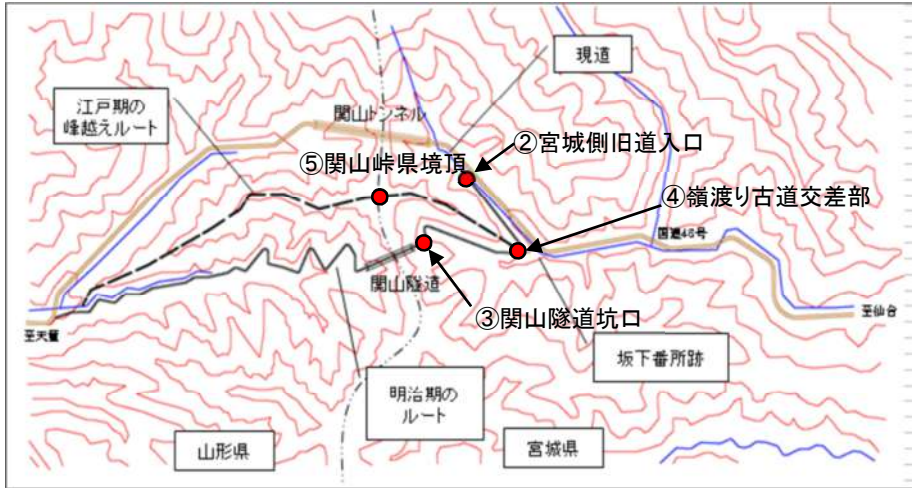
## 交流会【街道談義】

フォーラム終了後に同会場において、講師や発表者を囲んで交流会(街道談義)が行われました。当然、定義の三角あぶらあげ(専用かけしょうゆ付き)と宮城の地酒も用意されました。



「関山街道フォーラム」のイベントとして、『関山隧道 & 嶺渡り』探訪会を開催しました。

コースは、国道 48 号の旧関山隧道(宮城県側トンネル入り口)までの探索と関山古道(嶺渡り)の県境越えの全約7.2km、所要時間約 6 時間です。参加者は 30 名です。



■ 行程(実績)

①広瀬市民センター	8:00
②宮城側旧道入口	9:20
③関山隧道	10:00
④嶺渡り古道交差部	10:30
⑤関山峠県境頂(標高 800m)	12:00
昼食 & 休憩	12:00~12:40
⑥GOAL(山形県側国道48号)	15:00
⑦温泉入浴 & 解散	16:30

- ・ 旧国道は、昭和 43 年、現在の関山トンネル完成に伴い廃道となってから 40 数年も経過していること及び雪解け後の状況把握のため、前週(20 日)にスタッフ及び有志の 20 名により下見を行っています。
- ・ 途中からの関山古道(嶺渡り)への登り口は、旧国道の切り土により急峻な崖となっているため、ザイルを張り参加者の安全に配慮しました。また、下山口には、川を渡る箇所もあり、一時的に歩み板を設置しました。



【さいごに】

- ・ 当日は、天気にも恵まれ、当時の情景を思い浮かべながらの楽しい探訪会となりました。
- ・ 関山隧道には、思い出がある方も多く、関心の高さがうかがえました。
- ・ 一方、古道は、藪が生い茂っている場所や残雪で歩きにくい場所もありましたが、時おり見える展望の良さや足元に咲く山野草の花に励まされ、全員無事歩き通すことができました。
- ・ 下山後は、「岩松旅館」のご好意により温泉に入浴し、それぞれの帰路へとつきました。
- ・ 登り口まで送迎をお願いした「ゆづくしの宿 一の坊」「岩松旅館」やコース整備など多くの方々のご協力により無事に開催出来ました。



関山隧道坑口(山形県側)  
山形県HPより

# 街道探訪会 『宿場町を歩こう』

[平成24年5月27日(日)]

街道フォーラム 2 日目の街道探訪会は、45 名が参加しました。行程と主な区間の概要は次のとおりです。

広瀬市民センター [9:00 発] ～(愛子 BP)～西館跡～薬師堂～(落合駅前)～愛子宿～白沢…  
道半…野川橋(広瀬川)…天野橋…熊ヶ根城跡…熊ヶ根宿…JR 熊ヶ根駅～ニッカウヰスキー宮城峡～  
作並温泉(昼食)…湯神神社～作並宿(境目番所跡まで宿駅内探訪)～鳳鳴四十八滝(散策)～  
広瀬市民センター [15:00 着] バスと徒歩の合計約 35Km (※ ～はバス移動、…は徒歩を示す)

## ◆ 広瀬市民センター～白沢(バス車中案内)

「宮城地区郷土史探訪会」幹事の佐藤正さんより、車中から沿道の西館跡、薬師堂、愛子宿などについて説明していただきました。佐藤さんは、バスガイドよろしく、車中立ったままでの軽快な説明でした。



## ◆ 白沢…JR 熊ヶ根駅(徒歩)

ここからは、「みやぎ西探訪会」幹事の庄子喜一さんと早坂傳夫さんの説明です。上愛子小前でバスを降り、JR 熊ヶ根駅までの区間は約 3km の徒歩探訪です。



## ◆ 作並温泉～作並宿(徒歩)～鳳鳴四十八滝

作並宿は東口から境目番所跡までの往復 800m を徒歩探訪後、鳳鳴四十八滝を散策し帰途につきました。



# 参加者内訳及びアンケート結果

## 1. 参加者内訳

- 3日間の合計で、172名(延べ227名)の参加者がありました。特に、5月26日開催のフォーラムでは、予想を大きく上回る152名(参画団体会員以外の一般参加者63名)の参加をいただきました。
- 地域別では、対象地域である青葉区の西地区の参加者は94名(55%)で、対象地域以外からは78名(45%)の参加をいただきました。

### 【内容別内訳】

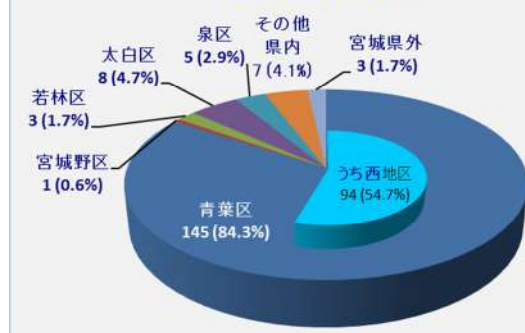
	全体	一般	参画団体	計	備考
4/28 関山隧道&嶺渡り		10	20	30	
5/26 フォーラム		63	89	152	
交流会		7	35	42	参加者計には含まず
5/27 街道探訪会		12	33	45	
参加者計	延べ	85	142	227	
	重複除く	75	97	172	

### 【地域別内訳】

	一般	参画団体	計	備考	
仙台市内	青葉区	62	83	145	うち西地区94名
	宮城野区	1	0	1	
	若林区	0	3	3	
	太白区	4	4	8	
	泉区	3	2	5	
	市計	70	92	162	
その他宮城県内	3	4	7		
宮城県外	2	1	3		
合計(重複除く)	75	97	172		

※青葉区の西地区は、宮城総合支所管内・八幡・郷六・折立とした。

### 【地域別内訳】

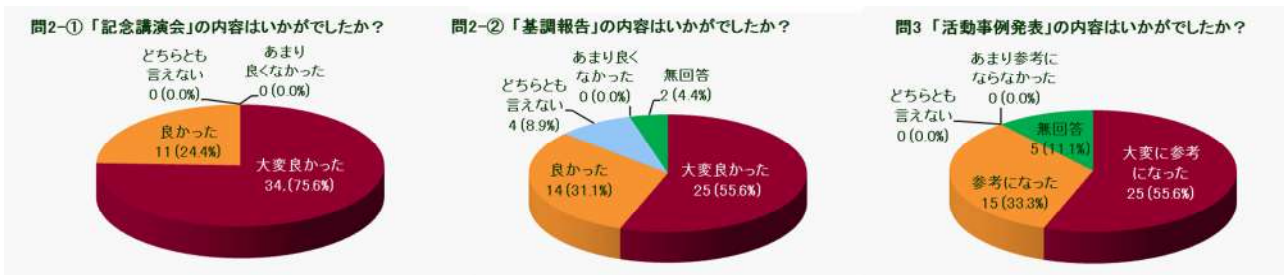


## 2. アンケート結果

### (1) フォーラム

- 記念講演会が全員、基調報告及び活動事例発表はおおむね9割が好意的な回答をしています。

【回答数45、回答率31.5%(対出演者を除く参加者)】



- 自由記述の主なものは、次のとおりですが、『宮城地区雑記控』の再販、次回開催の期待やフォーラムの継続を望む意見が多くありました。

### 問2-①.「記念講演」の内容について

- 愛子宿を終の棲家とした者として、大変興味を持てた講演でした。/身近な街道に歴史が埋もれていることを知らされた。/自分が住む地域の遺構についての歴史を知ることが出来、少しずつ探訪していきたい。/宮城地区の歴史をもう少し詳しく知りたいと思う。

### 問2-②.「基調報告」の内容について

- 苦労話と面白い話ですぐ時間が過ぎ足りないくらいであった。/表現、力強さ、とても感動的であった。産みの苦労と喜びが良く伝わった。/自分達の地域でも作ってみたい。
- 本を買い自分で探索している。場所を再確認し楽しく見えています。/本は購入し、聞き取り調査なので昔を知る事が出来ました。/買い求めたので、今後ヒマを見て読んでみたい。
- 是非とも本の再販を望みます。(他に再販を望むもの 11)/増刷をお願いしたいが、出来なければHPでの閲覧が可能となるようお願いしたい。

### 問3.「活動事例報告」の内容について

- 各々大変結構でした。またの開催も是非お願いいたします。/それぞれのグループの活動、生きる糧になるな〜と感じました。/日頃の地道な継続されている活動にご苦勞を感じ、感動しました。/皆さん全員が印象的で大変良かった。/各団体とも自主的な活動をされていて参考になりました。

### 問5.感想・意見など

- 関山峠関連の各団体が一同に会しての活動を通じて、まとめて話され、良く理解できた。/様々な活動を知り、また、宮城地域には手付かずの地域資源がたくさんあることがわかった。地域のことを学習し

ていきたい。

- ・郷土を知る良い企画と思います。／待望の行事、とても感動でした。／郷土を研究し、発表することは、郷土愛に結びつき非常に素晴らしいことと思います。／乗生に住んで22年になりますが、地域の歴史の深さ1つひとつ確認して、生きる糧にしています。／地域おこしは、個人の生き甲斐に直結すると思った。
- ・関山街道に対し多に興味が持てました。今後もフォーラムを続けて頂きたい。／これからも継続した活動、地域の活性化につながることを期待します。／今後も継続して展開を広げてもらいたい。歴史・地域に根ざした生活文化や芸能までも絡ませてください。／地域の活性化、コミュニケーションを図るための交流で顔合わせとなり、今後につながるものと思う。(他にも継続や次回期待するもの 7)

## (2) 街道探訪会『宿場町を歩こう』

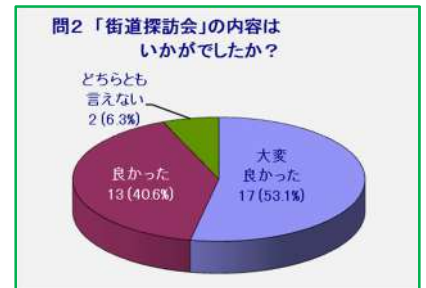
【回答数32、回答率78% (スタッフ除く参加者)】

### 1) 参加者の9割以上が好意的な回答しています。

また、印象に残った場所としては、コース全般にわたり記載されているが、特に、徒歩探訪した道半(どうはん)から熊ヶ根宿までのポイントが多くあげられていました。

### 2) 自由記述の主なものは、次のとおりですが、今回以外の地区の探訪会を期待する意見がありました。

- ・説明者の懸命の話に感動した。／初めて知ることばかりで、現地の人でない知らない話が多く良かったと思います。／個人では行くことない所を見て歩きとても楽しく過ごしました。参加者の方とお話しできて参考になりました。
- ・徒歩で回ること新たな発見ができました。／普段なかなか歩けないところを歴史等聞きながら歩いて嬉しかったです。／熊ヶ根の古道や宿場町を地元の方のガイドで探訪できて穴場的な見所を知る良い機会だった。／以前個人的に歩いたが、今回はより深く知ることができた。／初見のところが何ヶ所もあり、参考になった。
- ・地元長老の子供時代の話など書物では知り得ない、ありし日々、関山街道沿いの人々の暮らしをイキイキと思い描けた。／地域の人々の研究成果をこのような探訪会を通じて発表することは励みになると思う。
- ・年2・3回企画してはいかがでしょう。／今回バスの中となった落合、愛子地区、郷六地区での探訪会を期待します。／パート2山形側を期待します(秋でも良いかも)。／関山街道沿線の各地で、このような地元のガイド付きの案内で観光できるとすばらしい。



## (3) プレイベント『関山隧道&嶺渡り』

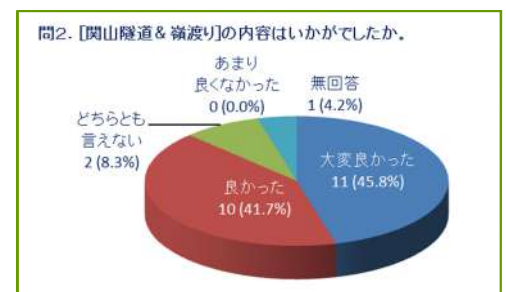
【有効回答数24、回答率82.8% (案内者除く参加者)】

### 1) 参加者の9割が好意的な回答しています。

### 2) 自由記述の主なものは、次のとおりです。

#### 問2. [関山隧道&嶺渡り]の内容はいかがでしたか。

- ・徒歩で峠を越えた江戸時代に思いをはせてフーフー言いながら歩きました。大変だっただろうなと実感。／案内していただく方がいなければ、絶対わからない道だったと思います。長年歩きたいと思っていたので、一生の思い出となりました。
- ・景観が良かった。運動となった。(ハードでしたが)コースが悪路、枝や笹で歩きにくい。
- ・初めて体験し、昔の時代の大変さを理解できました。身近なところにある地域資源を再発見しました。
- ・日帰り温泉割引はありがたかった。要望が強ければ地域の継続できるイベントとして定着してほしい。



#### 問3. 関山街道についての思い出やご意見など

- ・昭和39年か40年にバイクでドライブ中ガソリンがなくなり、トンネル入り口から作並まで惰力で通行したことがある。／50年前(1862.3月)に仙台から蔵王スキー場へ行く時、初めて関山トンネルを通り抜けた所でバスが休憩したので、下車してあたりを見た思いがある。ずいぶん高いところだったと思ったのを覚えています。／霊が出るという怖い噂もありましたが、とても健全な場所だと分かりました。
- ・作並学区にある"宿"のことまた関山隧道についてなど私自身が知り、子供達に伝えたいという思いで参加させていただきました。帰りにのんびりの温泉付きがとても良かったです。

#### 問5. 「関山街道フォーラム」に期待される事は何ですか。

- ・地域内の多様な活動団体の連携、交流とさらに発展させ他地域との交流を通じた、地域の元気再生と魅力の再発見。／他の団体とも交流の機会がふえればうれしいと思います。
- ・継続的な取組みを予定しているか。今後の目標はなにか。／仙山交流の歴史の中での位置を整理してほしい。
- ・フォーラムをとおして宮城地区をPRできるとよい。



## 『巡回パネル展』

広瀬市民センター2Fホールほか3箇所において、実行委員会に参画した次表の20団体(外に関山街道フォーラム実行委員会)の活動内容などのパネルを展示しました。

愛子の郷交流会	浅井紀夫氏(天童郷土研究会)	仙台市宮城地区郷土史探訪会
八幡地区まちづくり協議会	伊達政宗公姫・五郎八俱樂部	広瀬川市民会議
ひろせの底力	みやぎ西探訪会	みやぎ街道交流会
仙台西国 VSP 連絡協議会	作並振興協会	仙台・作並回文の里づくり 実行委員会
定義観光協会	河北新報(仙山カレッジ)	ニッカウエスキー(株)仙台工場
みやぎ建設総合センター	土木学会東北支部 (選奨土木遺産)	大倉ふるさとセンター
仙台市広瀬市民センター	仙台市宮城総合支所(ぐる〜つ と広瀬100巡り実行委員会)	関山街道フォーラム実行委員会 (関山隧道&峰渡り報告)

パネル展の開催会場及び期間は次のとおりです。

### 広瀬市民センター

5月26日(土) 11:00～  
6月 3日(日) 13:00

### 八幡社の館

6月7日(木) 10:00～  
7月1日(日) 13:00

### 作並湯の駅 ラサント

7月1日(日) 16:00～  
7月7日(土) 13:00

### ニッカウエスキー(株)仙台工場

7月 7日(土) 16:00～  
7月11日(水) 15:00



の周辺で活動する危機  
山形両県の六つの市民団  
体が事例発表した。  
―愛子の郷交流会(仙  
台市)は、副会長の秋山栄  
作さん(77)が宿場町とし  
てにきわった愛子の郷社  
の由来を紹介。街の案内  
看板の必要性を指摘する  
などして、地域活性化の  
ための方策も提案した。

実行委員会委員長、  
東北大学災害科学国際研究  
所所長の平川新さん(61)  
は「フォーラムを通じて地  
域を愛する気持ちが広が  
ってほしい」と話した。活  
動事例発表に先立ち平川  
さんが歴史に探る広瀬  
の宝「関山街道の魅力」  
と題して記念講演した。



現在の国道45号はほぼ「再発見しよう」と、関山  
重なる関山街道の魅力  
を「フォーラム」で6日  
仙台市青葉区の市広瀬市  
民センターで開かれた。  
「みやぎ街道交流会(仙  
台市)をはじめ、歴史を  
学ぶ市民グループなど  
でつくる実行委員会が初  
めて開催し、市民約150  
人が参加した。  
「天童郷土研究会(仙  
台市)や「あまのつくり実  
行委員会」など、旧街道

# 関山街道の 魅力発掘を フォーラムで6団体が事例発表

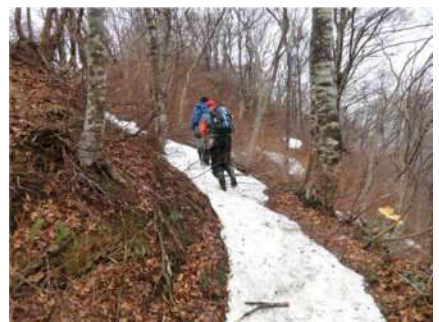
## 関山街道フォーラム実行委員会の開催経緯

これまでの実行委員会及び事務局会議等の開催経緯は、次のとおりです。なお、7月28日開催の「拡大事務局会議」において、当該フォーラムを今後も継続することになりました。

No	日時	会議名	出席等	内容
1	12月6日(火) 14:00～	実行委員会(第1回)	19団体 27名	準備会及び実行委員会設立
2	1月18日(水)	事務局会議(第1回)	10団体 11名	実施内容について
3	2月22日(水) 14:00～	事務局会議(第2回)	10団体 12名	実施内容・広報計画について
4	3月 9日(金) 14:00～	実行委員会(第2回)	17団体 22名	実施内容の決定
5	4月20日(金)	関山峠下見	参加者 20名	「関山隧道&嶺渡り」下見
6	4月28日(土)	イベント開催	参加者 30名	イベント『関山隧道&嶺渡り』実施
7	5月18日(金) 16:00～	事務局会議(第3回)	12団体 15名	実施内容等の最終確認
8	5月25日(金) 13:30～	前日準備	5団体 8名	配布資料確認・準備
9	5月26日(土)	フォーラム開催	参加者 152名	フォーラム・パネル展・交流会開催
10	5月27日(日)	街道探訪会開催	参加者 45名	街道探訪会『宿場町を歩こう』実施
11	6月 8日(金) 15:30～	事務局「ア-メソ」会議	4団体 6名	今後の進め方等の検討
12	7月28日(土) 15:00～	拡大事務局会議	15団体 25名	フォーラムの総括・今後の対応方針について

### 関山街道フォーラム実行委員会名簿

委員会 役職	所属	委員		事務局員	
		職名	氏名	職名	氏名
委員長	みやぎ街道交流会 (東北大学 災害科学国際研究所)	顧問 (所長・教授)	平川 新		
副委員長	仙台市宮城地区郷土史探訪会 (くろーつと広瀬100巡り実行委員会)	会長 (委員長)	本間 一夫		
委員	愛子の郷交流会	代表	加藤 榮一	事務局長	柳沼 宣洋
	里山を歩く会	代表	千葉 仁	代表	千葉 仁
	八幡地区まちづくり協議会	会長	永山 富康		
	伊達政宗公姫 五郎八俱樂部	会長	天野 貴之		
	広瀬川市民会議	会長	工藤 秀也		
	ひろせの底力	代表	高橋 建夫	代表	高橋 建夫
	みやぎ西探訪会	代表	佐藤 正	事務局	鈴木 博美
	仙台西国VSP連絡協議会	会長	笹原 喜悦	幹事	吉田 健二
	作並振興協会	会長	岩松 廣行		
	作並温泉旅館組合	組合長	岩松 廣行		畑中 健一
	定義観光協会	会長	早坂 忍	委員	梅津 義政
	ニッカウマスキー(株)仙台工場 (くろーつと広瀬100巡り実行委員会)	工場長 (総務部会長)	山中 晶		
	みやぎ建設総合センター	副理事長兼所長	大内 秀明	事務局長	八木橋 雄介
	土木学会東北支部 土木遺産観光交流活用研究会	幹事	加納 実		
	大倉ふるさとセンター	センター長	小林 守		
	仙台市広瀬市民センター	館長	佐藤 敏国	主任	原河 敦子
	仙台市宮城総合支所まちづくり推進課	地域振興係長	遠藤 幸壽	地域振興係長	遠藤 幸壽
会計	仙台西国VSP連絡協議会	幹事	中野 真哉	幹事	中野 真哉
事務局長	みやぎ街道交流会	事務局長代理	横山 修司	事務局長代理	横山 修司
オブザーバー	(天童郷土研究会)		浅井 紀夫		
	みやぎ街道交流会	会長	白鳥 良一	事務局長	山屋 敬英
	仙台海川国道事務所 仙台西国道維持出張所	所長	立花 義則	所長	立花 義則



4月20日『関山隧道&嶺渡り』下見  
(残雪が嶺渡りの街道をクッキリと  
現している。)

## 【関山街道歴史メモ】

### 【関山街道】

関山街道がいつ開かれたかを示す史料はない。だが、天正年間(1580年代)には天童城主が山形を拠点とする最上義光に攻められ、関山峠を越えて愛子に落ち延びたという記録がある。(「関山街道」『歴史の道調査報告書』、宮城県教育委員会)。その途中の熊ヶ根には、天正16(1588)年に「町屋敷」があった(『仙台市史』資料編)。熊ヶ根には戦国時代に、国人領主である国分氏の家臣六丁目氏が館(熊ヶ根城跡)を構えており、周辺に町場を形成していたのだろう。

熊ヶ根の町からややはずれた西側には関所神社があり、いつ廃止されたのかは不明だが、古くには関所が設けられていたという(「熊ヶ根村風土記書上」『宮城町史』資料編)。江戸時代にはいると、関山峠の入り口の坂下に境目番所がおかれていたので、熊ヶ根の関所は、これより古いはずである。ということは、江戸時代以前もこの道筋には関所をおくほどの人と物の移動があったということになる。

江戸時代になると、(略) 元和8(1622)年の史料に、「あやし町火事」という記事がある(『仙台市史』資料編)。ということはこの時期よりも前に、愛子にも町場が形成されていたことになる。また下愛子村の藤内(小松家)は、慶長年間から寛永年間(1600年前後～1630年代)に肝入と検断の両役を務めたという記録もある(「代数有之御百姓書出」『宮城町史』)。肝入は村長であり、検断とは宿駅業務を取りしきる職務である。元和8年の「あやし町火事」の記事とあわせれば、慶長から元和年間にはすでに愛子宿が設置されていたとみてよいだろう。

仙台領内を通る関山街道には、同じころに開設されたと思われる熊ヶ根宿と作並宿もあった。だが、関山峠を越えると天童まで宿駅がおかれた形跡はない。関山村にも問屋はあったが、脇街道であったために宿駅という位置づけがなされていなかったのだろう。これに対して仙台領では、右の3宿を宿駅として認定していた。仙台城下から作並まで、藩役人の往来が多かったために、宿駅において人馬を常駐させておく必要があったからだと思う。

(『歴史探訪 関山街道を行く』(平川新編)より)

### 【関山隧道掘削】

交通運輸は、江戸時代の駄送や駕籠・人足から馬車の時代に続いて、鉄道・自動車の時代に変わり近代社会を迎えます。戊辰戦争で一敗地にまみれた東北諸藩に元気を与えるため明治政府は、東北振興の拠点として、日本最初の近代港湾建設を鳴瀬川の河口の野蒜に計画しました。

この計画実現のために、関山街道に馬車の通るトンネルを掘削して野蒜に連結をしました。この道路改修とトンネルは明治15年に完成しました。

野蒜築港は2年後の台風によって壊滅して幻となりましたが、関山街道は明治20年の東北線の開通によって全盛時代を迎えます。しかし、明治34年の奥羽線の開通によって衰微の道をたどることになりました。

(みやぎ街道交流会名誉会長高倉淳氏HPより)

### 【関山隧道(トンネル)の概要】

仙台と山形をつなぐ街道として利用された峠。特に明治15年に関山隧道が完成すると、この方向の交通を一挙に引き受ける形で繁栄。のち昭和12年には初代隧道を拡張する形で二代目関山隧道が作られた。現在は、昭和43年に完成した新関山トンネル(標高531m、延長890m)が国道48号として活躍している。

(『峠の道路史』(野村和正著)より)

関山隧道:1882年(明治15年)竣工、延長284m、幅員5m、標高594m

(拡張):1937年(昭和12年)竣工、延長298m、幅員6m、標高(変わらず)

関山トンネル:1968年(昭和43年)竣工、延長890m、幅員7m、標高531m



(写真) 関山隧道(トンネル)坑

上:東口(宮城県側) 下:西口(山形県側)

左から 高橋由一画、旧国道、現国道

※1 高橋由一画「三島県令道路改修記念画帖」

※2 旧国道西口も現在は、柵で閉鎖されている。

## 主催 関山街道フォーラム実行委員会

愛子の郷交流会、里山を歩く会、仙台市宮城地区郷土史探訪会、八幡地区まちづくり協議会、伊達政宗公姫・五郎八倶楽部、広瀬川市民会議、ひろせの底力、みやぎ西探訪会、みやぎ街道交流会、仙台西国 VSP 連絡協議会、作並振興協会、作並温泉旅館組合、定義観光協会、ニッカウヰスキー(株)仙台工場、みやぎ建設総合センター、土木学会東北支部、大倉ふるさとセンター、仙台市広瀬市民センター、仙台市宮城総合支所

(事務局) 〒980-0014 仙台市青葉区本町1丁目 13-32 オーロラビル2F みやぎ街道交流会内  
TEL022-722-3380 FAX022-722-3381 E-mail:miyagi-kaidou@auone.jp

後援 宮城県、仙台河川国道事務所、宮城大学、NHK仙台放送局、河北新報社、JR東日本旅客鉄道(株)愛子駅、くりはら街道会議、羽州街道交流会、三宿地域連携協議会、NPO 法人東北みち会議、とうほく街道会議

協賛等 (社)東北建設協会「みちのく国づくり支援事業」  
仙台市青葉区「まちづくり活動助成事業」